

第13回 議員定数等調査特別委員会 会議録（要旨）

日時 令和7年9月9日（火曜日） 午後1時30分～午後3時22分
場所 白杵庁舎2階 議員応接室

出席委員の氏名

委員長 梅田 徳男 委員 平川 幸司
委員 安東 鉄男 委員 河野 巧 委員 川辺 隆
委員 戸匹 映二 委員 匹田 郁 委員 吉岡 勲

欠席委員の氏名

（ な し ）

オブザーバー

議長 内藤 康弘 副議長 伊藤 淳

説明のため出席した者の職氏名

（ な し ）

出席した事務局職員の職氏名

局長 林 昌英 書記 小嶋 佳希 主幹 原 伸行 副主幹 工藤 真里子

傍聴者

（ な し ）

会議に付した事件

1. 委員意見集約について
 2. 今後のスケジュールについて
 3. その他
-

午後1時30分 開議

協議事項

1. 意見集約について

○ 委員長（梅田徳男）

前回会議では委員の意見と考え方を伺った。

その結果、2026年の選挙では、定数維持を望む委員は5名、定数減を望む委員は2名。5年後（2030年）の選挙では、定数減を望む委員が5名（うち2名は2026年から減を望む）、定数維持を望む委員が1名、定数増を望む委員が1名だった。

選挙公営制度については、現状維持を望む委員が4名、拡充すべきが3名（うち2名が市民の理解を得る必要があるとの意見）

政務活動費については、現状通り交付しないを望む委員4名、交付すべきと考える委員が3名（うち1名が市民の理解の必要性、1名が今後の議論が必要との意見）

以上の意見について、市民にご理解いただける結論につなげるために、白杵市自治会連合会理事会との意見交換会や市民アンケートの結果を踏まえた理由について、事前に意見集約表の記載、提出をお願いしていた。本日はそれぞれの意見に至った具体的な理由について発言をお願いしたい。

まずは、議員定数についてそれぞれ意見を述べてほしい。

○ 委員（意見）

- ・会派の中で協議した結果、定数については、人口比で考えるべきとの市民の意見があったが、これまでのことなど総合的に考えた時に、次期選挙は定数維持という意見になった。
- ・5年後については、人口減の状況に応じて定数減で考えるべき。ただし選挙公営制度や政務活動費もセットで考え、早い段階で協議を行い、定数を決めるべきである。
- ・定数減になれば、3つの委員会構成を考えた時に委員が少なくなれば意見が出にくくなる。そのため次期選挙は現状維持を望む。今後人口減少が見込まれれば、なおさら市民の意見を代弁する必要があるので5年後の選挙は定数増を望む。その場合、議員報酬を減らすことについても併せて考えるべき。
- ・予算総枠の中で、議員報酬を20万円ぐらいに減らして、定数を増やすべきである。
- ・人口が減れば、人口密集地とそうでないところの差が大きくなり、きめ細かな意見聴取などが必要になるため、今より議員を増やすべきと思う。
- ・議員報酬を減らせば、専従で議員をされる方の生活に関わってくるので、議員のなり手確保に影響を及ぼすのではないか。
- ・専従でない方の議員を求める場合は、今の議会の開催の仕方（日中の開催）も考えないといけない。例えば年間いつでも開催できるようにするとか、土日や夜に開催するとか。
- ・報酬と定数は別々に考えるべき。地方議員には兼業は認められてはいるが、議会優先なので、仕事があるから議会に出席できないという理由は成り立たない。この部分は理解したうえで議論を進めるべき。5年後に議員を増やすという選択肢もある。今回の市民アンケートの傾向を見ると、市街地中心部の方の意見としては議会に理解を示せないという傾

向が見受けられた。しかし自治会連合会の意見交換会での意見では、小さな声を代弁してくれるのは市議会議員しかいないという声も聞かれる。従って5年後に向けて、減らすという議論と増やすという議論は両方行ってよいと思う。

- ・人口が減れば議員定数も減らすというのは根底にある。全国平均や他市の状況を見ても、定数減の方向に進んでいること、また民意である市民アンケートの結果も踏まえて定数を減らすべきと考えている。
- ・会派で協議した結果、次期選挙、5年後ともに定数維持という結論。他市では選挙において定数割れが発生しているので議員定数を減らしていると認識しており、近年の白杵市の選挙では立候補者数が定数を上回っているため、広く市民の意見を反映させるために現在の定数は必要と考えている。また現在3委員会に各6名で、委員長を除いた5名の委員で採決をするため、採決しやすさから最低ラインかなと考えている。5年後に向けては、市報とは別の議会広報誌を発行するなど、議会活動や課題を市民に伝えていく必要がある。
- ・議員アンケートの結果や、自治会連合会との意見交換会及びアンケート結果、市民アンケートの結果等に加え、人口減少の目安を3万人と考えた場合、定数維持という結論になった。定数減になると地域の小さな意見を市政に反映させることが困難になる。5年後は人口が3万人を切るということが見えてくれば定数減についても検討すべき。
- ・次期選挙も5年後も定数16名と考えている。10年間で約2割の6,000名の人口が減少しているなかで、議員定数の1割は少なくとも減らし、1割少ない議員でも最大限の成果を上げるよう努力すべきである。他市議会でも定数を減らしながらも努力をしている。
- ・市民アンケートでは、人口に見合った数にすべきとの意見が多かったが、議員の活動を良く知る区長の方々は現状の18名が適切との意見が多かった。このことから、まだまだ議会の活動が知られていないのかなと分析した。現状では人口レベルで見ると定数減でも維持でもどちらでもよいという微妙な時期なので、現状の定数のままで議会改革を通じて、市民に議会活動を理解してもらう取り組みが必要と思う。5年後については人口減少の状況から定数減の方向かなと判断し、2～3名減で考えるべき。

○ 委員長（梅田徳男）

現状維持を望む意見が多いですが、その理由についてもう少ししっかり考えたい。改めて委員の意見を聞きたい。

○ 委員（意見）

- ・県内の議員定数の状況を比較すると、今必ずしも減らさないといけない状況ではないと思う。
- ・類似団体で考えると、県内なら豊後大野市、由布市である。一番近い由布市は18名となっている。

・本日の意見は会派での意見と、委員の個人的な意見が散見している。今一度会派に持ち帰って、会派で集約した意見を次回の本委員会に持ってくるのが良いと思う。

○ 委員長（梅田徳男）

本日の予定では、皆さんの意見を聞いて本委員会の方針を決めて、会派に持ち帰ってもらいたいと考えている。そのうえで次回最終決定したいと考えている。本日の意見を踏まえて方針案を決定したい。

議員定数については、来年（2026年）改の選時の定数は現状維持（定数18名）が最も多い意見であるが、この方針で良いか？

（ 異議なし ）

次に5年後（2030年）の定数については、今回市民アンケート等の結果を考慮すると、定数減ということだけではなくて、具体的に2～3名減の範囲内で検討するという事かどうか。

○ 委員（意見）

・定数減は良いと思うが、具体的な人数は、次の体制で考えるべきと思うので必要ないと思う。

・1～3名の範囲ではどうか。

・5年後は体制も状況も変わるので、減らす人数については慎重に考えないといけない。次期選挙後の議員の方に負担を残す可能性もある。会派に持ち帰って検討させてもらいたい。

○ 委員長（梅田徳男）

選挙公営制度と政務活動費については、十分に市民の理解が得られていないという意見もあり、分っていただける努力が必要とのことから、来年の選挙後の新体制で検討を継続していただくということにしたいと思うがいかがか。

（ 異議なし ）

○ 委員長（梅田徳男）

それでは以上の方針案について、会派に持ち帰っていただき協議をしたうえで、次回の本委員会で最終決定したい。

（ 協議結果 ）

◎議員定数についての方針案について、以下のとおり決定。

・来年（2026年）の改選時の定数は現状維持（定数18名）とする。

・5年後については定数減で考えるが、具体的な減人数については、会派に持ち帰って検討した結果を踏まえ、次回決定する。

◎選挙公営制度及び政務活動費について、以下のとおり決定。

・現段階での選挙公営制度の拡充及び政務活動費の交付は求めないが、来年の選挙後の新体制で引き続き検討すべき。

2. 今後のスケジュールについて

◎ 事務局（小嶋佳希）

（ 配付資料に基づき説明 ）

（ 協議結果 ）

◎今後の日程案について、以下のとおり決定。

9月18日（木）本会議終了後 第14回委員会

9月19日（金）常任委員会終了後 第15回委員会

9月22日（月）予算委員会終了後 調査結果報告書を議長へ報告

9月39日（火）本会議にて委員長報告

午後3時22分 閉会

白杵市議会委員会条例第30条第1項の規定を準用し、ここに記録を作成する。

令和7年9月9日

議員定数等調査特別委員会

委員長 梅田 徳男